



ちとせ地区社協だより

白鹿の朝風

(千歳地区社会福祉協議会)

号外版

R5. 1. 1発行 号外 事務局:豊後大野市社会福祉協議会 千歳支部内 ☎(37-3110)

2025年問題を考える!

※2025年問題とは?

団塊の世代全員が75歳以上となる2025年以降、超高齢社会が訪れることで生じるさまざまな影響のこと。

「福祉活動は地域づくり」



高齢化が進み福祉課題が増加する中、これからの地域活動のヒントを学ぶため、千歳地区社協の主催にて「地域ささえあいフォーラム」を十二月十一日(日)に開催した。

超高齢社会を迎え、県内各地で様々な取り組みが行われる中、県の副知事も視察に訪れる、大分市にある「NPO法人 福祉コミュニティ KOUZAKI(コウザキ)」の稲生事務局長を招き、地域で安心して暮らすための実例紹介や考え方を示唆してもらった。

『昭和三十年代の高度経済成長とともに自治解決能力が弱り、行政依存が進んだ。私たちの地域も同様だった。地域が変わったきっかけは、二十数年前に地区で起こった孤独死。このことを自分ごとと捉え住民が動いたことが、今日の活動の基盤となった。安心して暮らすためには、地域での日常生活の延長から仕組みや組織をつくり出すこと。そう難しいことではない。』

本来、日本の地域社会が保有していた自治解決能力をとりもどす好機。福祉活動は地域づくり。千歳町の皆さんも頑張ってください。と稲生さんより力強いエールをいただいた。

千歳地区社協では、千歳町の福祉や地域のあり方を住民の皆さんと一緒に考えて、暮らしやすい地域にしたいと考えています。機会があれば、住民の皆さんの力添えをお願いします。

千歳地区社会福祉協議会長 河野八重子

※裏面に参加された方の声を掲載しました。